



本事業は、SDGsの「3 すべての人に健康と福祉を」に資する取組です。

2026年3月27日（金）
愛知県福祉局福祉部障害福祉課
重症心身障害児者支援グループ
担 当 小峰、鈴木
内 線 3501、3502
ダイヤル 052-954-6629

愛知県医療的ケア児者実態調査結果報告について

愛知県内で暮らす医療的ケア児者とその家族の生活状況や支援ニーズを把握し、県及び市町村の施策を推進するための基礎資料とすることを目的として、今年度、医療的ケア児者実態調査を実施しました。この調査は2019年度に引き続き、2回目の実施です。

この度、調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

愛知県医療的ケア児者実態調査結果報告書の主なポイント

- 医療的ケア児の人数は、0～17歳で1,737人（前回1,391人）でした。（3ページ）
- 在宅で医療的ケアを実施することになった時に困ったことや不安に感じたこととして、「医療的ケアを家族が実施すること」68.0%（前回51.2%）、「子どもの急変時の対応」64.8%（前回62.7%）、「看護・介護者に何かあった時に代替手段がない」60.3%（前回59.2%）と半数以上の人が回答しました。（3ページ）
- 主な看護・介護者の一日の合計の平均睡眠時間は、70.5%の人が「6時間未満」（前回74.7%）、33.6%の人が「5時間未満」（前回35.3%）と回答しました。特に人工呼吸器を使用している人の主な看護・介護者でみると、「5時間未満」の人は4割以上でした。（3ページ）
- 主な看護・介護者について、就労している人が39.6%（前回27.0%）と一番多い一方、就労したいが看護・介護のためできないと回答した人は、24.4%（前回38.0%）でした。（4ページ）
- 災害時・緊急時の家族以外の連絡先が決まっていない人が60.1%（前回70.7%）、避難場所が決まっていない人も17.0%（前回24.5%）いました。（6ページ）

調査及び調査結果の概要

1 調査目的

愛知県内で暮らす医療的ケア児者の対象者数及び医療的ケア児者とその家族の生活状況や支援ニーズ等を調査し、今後の県及び市町村の施策を推進するための基礎資料とするもの。

2 調査概要

調査対象	愛知県内において在宅で生活しており、日常生活及び社会生活を営むのに恒常的に下記の医療的ケアを必要とする40歳未満の者。 *医療的ケアの内容 人工呼吸器管理（排痰補助装置含む）、気管切開の管理、鼻咽頭エアウェイの管理、酸素療法、たんの吸引（口鼻腔、気管カニューレ）、ネブライザー（薬液吸入）、経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻）、中心静脈栄養（IVH）、 <u>皮下注射（インスリン）</u> 、 <u>血糖測定</u> 、 <u>腹膜透析</u> 、 <u>導尿</u> 、 <u>人工肛門</u> 、 <u>排便・洗腸</u> ※ <u>下線部</u> は、前回調査から追加した医療的ケア
調査方法	（1）医療的ケア児者の人数について＜数調査＞ 市町村が管内に居住する医療的ケア児者の人数を県に報告 （2）医療的ケア児者の生活状況や支援ニーズ等について＜ニーズ調査＞ ①県から市町村に調査票を送付 ②市町村が調査票を対象者へ直接送付又は相談支援事業所等を通じて対象者へ送付 ③対象者が市町村に郵送又はWebで回答 ④市町村が調査結果を取りまとめ、県に報告
調査時点	2025年4月1日
回収状況	ニーズ調査の回収率45.6%（989人／2,169人中）

3 調査報告書

調査報告書は、障害福祉課のWebページに掲載しています。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shogai/ikeajittaichousakekkahoukoku2025.html>)

4 調査報告書の概要

(1) 医療的ケア児者の人数

未就学児 (0～5歳)	学齢児 (6～17歳)	医療的ケア児計 (0～17歳)	18～39歳	医療的ケア児者計 (0～39歳)
653人	1,084人	1,737人	421人	2,169人※

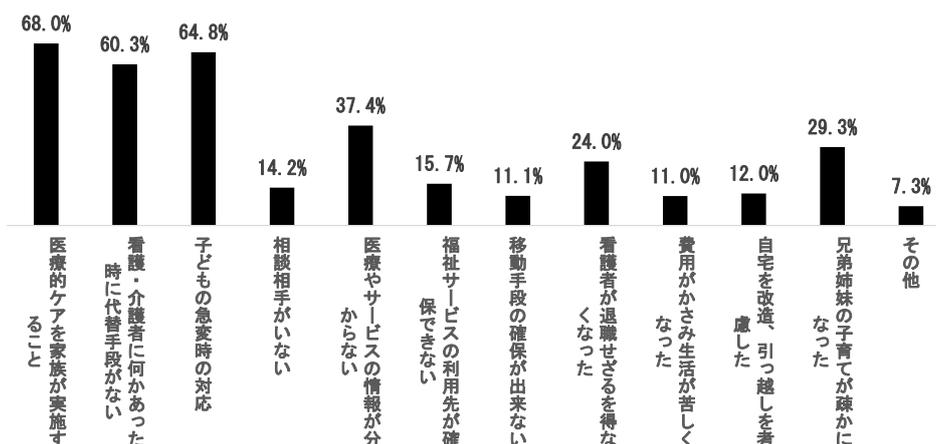
※年齢不明11名を含む。

(2) 医療的ケア児者の生活状況や支援ニーズ等

ア 在宅で医療的ケアを実施することになった時に困ったことや不安に感じたこと

在宅で医療的ケアを実施することになった時に困ったことや不安に感じたことは、「医療的ケアを家族が実施すること」が68.0%、「子どもの急変時の対応」が64.8%、「看護・介護者に何かあった時に代替手段がない」が60.3%と半数以上の方が回答した。

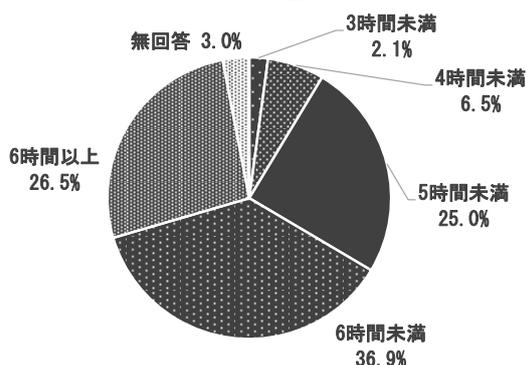
在宅で医療的ケアを実施することになった時に困ったことや不安に感じたこと【n=989】 ※複数回答



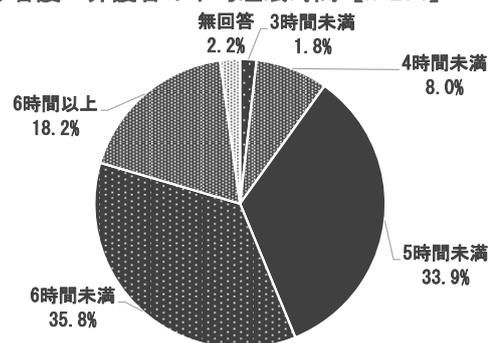
イ 主な看護・介護者の平均睡眠時間

主な看護・介護者の一日の合計の平均睡眠時間は、70.5%の方が「6時間未満」、33.6%の方が「5時間未満」だった。特に人工呼吸器を使用している人の主な看護・介護者でみると、5時間未満の人は43.7%だった。

主な看護・介護者の平均睡眠時間【n=897】



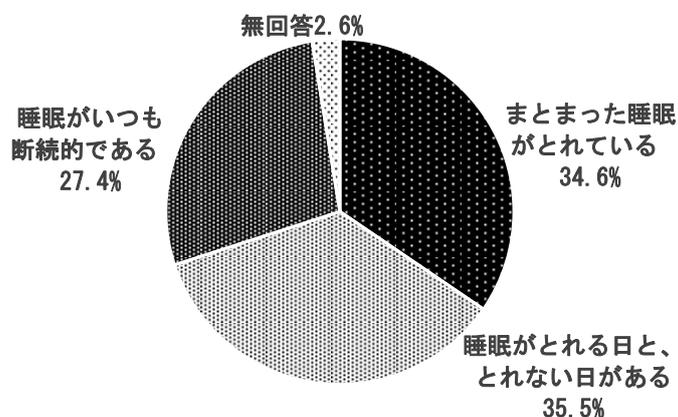
人工呼吸器を使用している人の主な看護・介護者の平均睡眠時間【n=274】



ウ 主な看護・介護者の睡眠形態

主な看護・介護者の睡眠の形態は、「睡眠がとれる日と、とれない日がある」が35.5%、「睡眠がいつも断続的である」が27.4%を占めた。

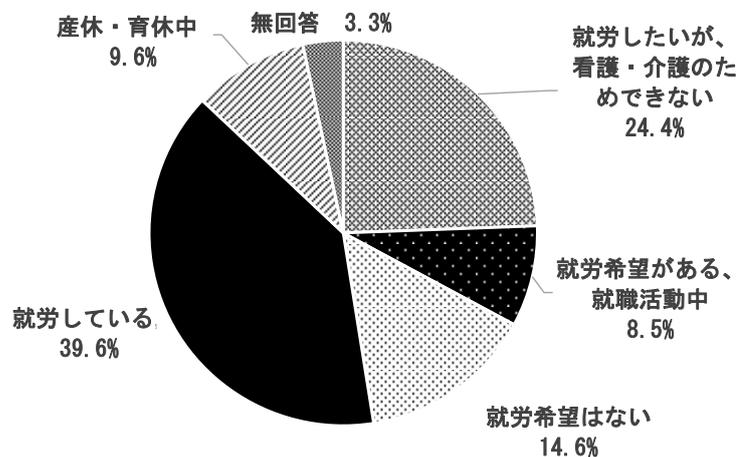
主な看護・介護者の睡眠形態【n=897】



エ 主な看護・介護者の就労状況

就労している人が39.6%と一番多いが、就労したいが、看護・介護のためできない人が24.4%、就労希望はない人が14.6%だった。

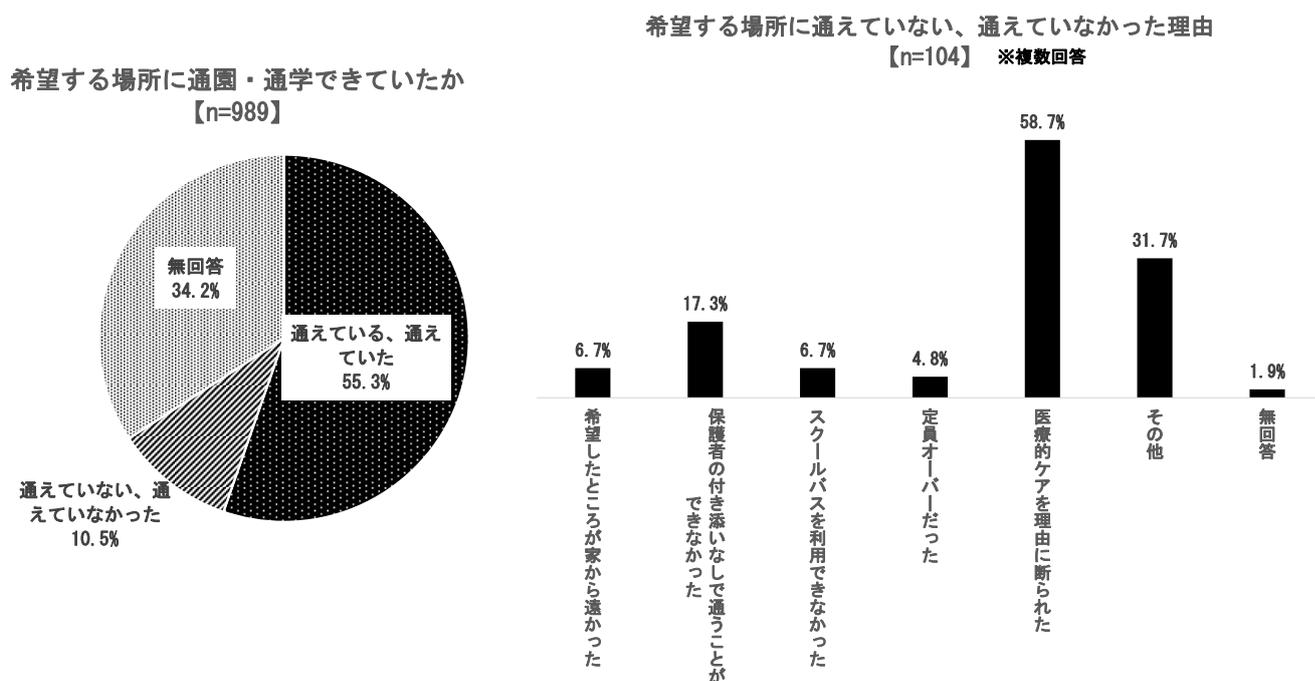
主な看護・介護者の就労状況【n=897】



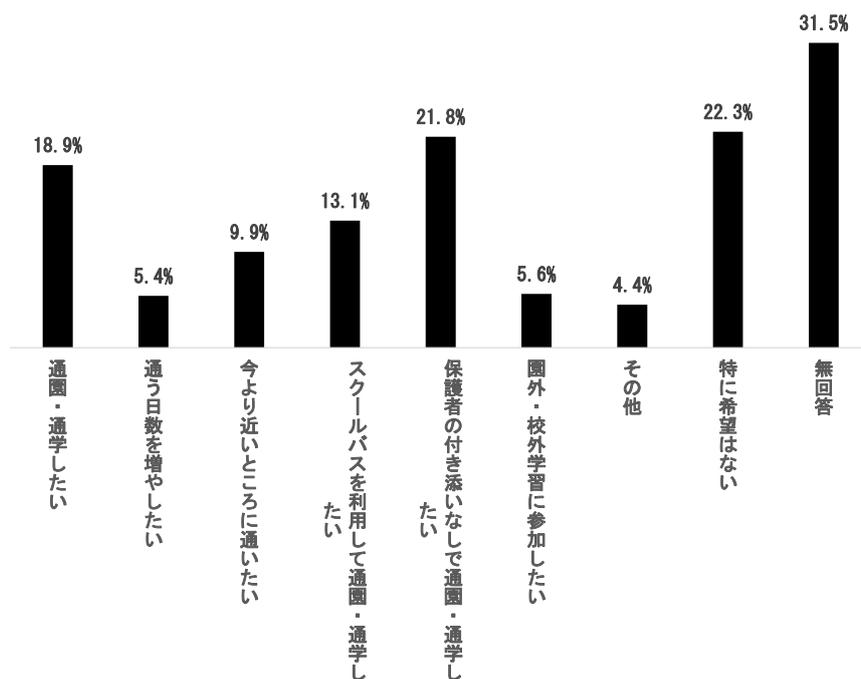
オ 通園・通学に関する状況、希望等

通園・通学に関し、希望する場所に「通えている、通えていた」と回答した人が55.3%だったのに対し、「通えていない、通えていなかった」と回答した人が10.5%だった。通えていない、通えていなかった理由としては、「医療的ケアを理由に断られた」が58.7%と一番多かった。

また、通園・通学に関する希望で一番多かった回答は、「特に希望はない」を除き、「保護者の付き添いなしで通園・通学したい」が21.8%だった。



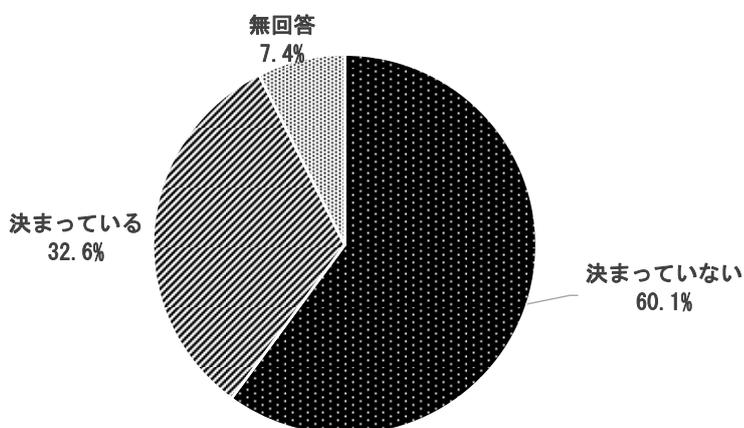
通園・通学に関する希望 【n=989】 ※複数回答



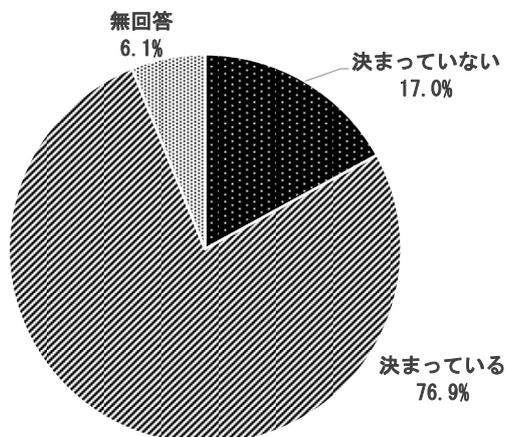
カ 災害時・緊急時の対策

災害時・緊急時の家族以外の連絡先について、60.1%の人が決まっておらず、避難場所が決まっていない人も17.0%いた。

災害時・緊急時の連絡先【n=989】



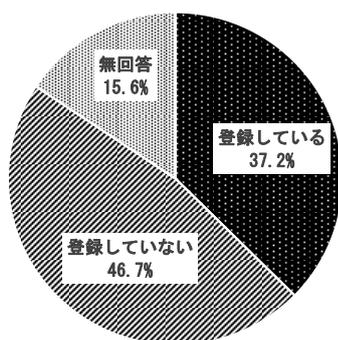
災害時の避難場所【n=989】



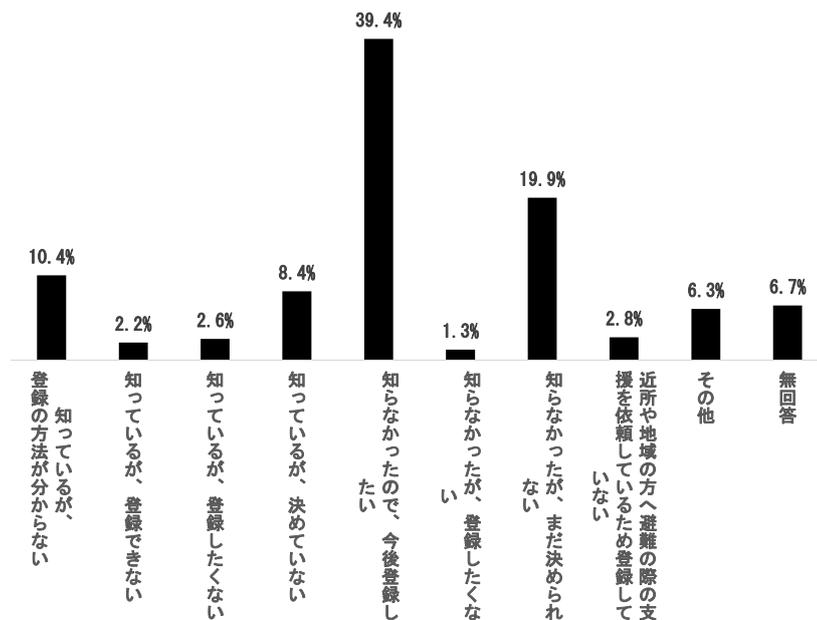
キ 市町村の避難行動要支援者名簿

市町村への避難行動要支援者名簿は登録している人は37.2%で、登録していない人は46.7%いた。名簿登録をしていない理由をみると「知らなかったので、今後登録したい」が39.4%いた。

避難行動要支援者名簿への登録【n=989】



避難行動要支援者名簿に登録をしていない理由【n=462】



ク 困っていることや不安なことに係る記述

困っていることや不安なことに関する自由記述を集計すると、一番多かった記述は「災害時に関すること」であり、次に「医療的ケアに対応できる事業所や施設の不足・制度がまだ不十分」、「本人の将来（介護・就労・学校等）への心配」だった。

困っていること・不安なことの主な記述内容

(件)

